

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077600155
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グループホーム白梅 (ユニット名)
所在地	福岡県久留米市北野町陣屋486-6
自己評価作成日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4077600155-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の一角に民家を改造して造られた施設です。開設から、12年目を迎え、自然と地域に溶け込んでおり、地域の行事にも積極的に参加しています。「住み慣れた地域にて、心と時間のなかで共に生き、家庭的な親近感を大切にしたい」を理念に掲げ、毎日出来ること(洗濯ものたたみ、掃除、散歩、リハビリ体操、嚥下体操、調理の手伝いとして皮むき、つぎ分け)等、利用者一人ひとりの能力に合わせて支援しています。食事は毎回職員が調理している為、利用者は近くで家庭的な匂いを常に感じる事ができています。又、利用者による調理会ではそれぞれ役割を分担し、個々に活躍できる場となっており、月1回の常会では、利用者の意見や要望を聞く機会を設けています。日頃から、ミーティングやケア会議にて利用者の状況は職員間で共有しており、利用者の状態の変化等、敏感に察知し利用者が安全に、安心して暮らせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム等、複数の事業所を設置運営している社会福祉法人を母体としている。住宅地の一角に事業所があり、近くにはのどかな田園風景が広がっている。「住み慣れた地域にて心と時間のなかで共に生き家庭的な親近感を大切にしたい」という理念のもと、職員と利用者がかつ一つの家族のように、地域との繋がりを大切にしながら、利用者の思いに寄り添う支援を心がけている。日頃から利用者は掃除や調理の下ごしらえなど出来る事をしたり、2ヶ月に一度程、利用者全員で食事を作ったりして、一人ひとりの「出来る力」を発揮する機会を設けている。一人ひとりの利用者が元気で穏やかな表情をしているのは、全員が食事をほぼ完食していることや、100歳を超える利用者が2名いることからもうかがえる。地域交流の拠点として今後益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やミーティングで、理念の意義を見直したり日々、利用者様と関わる中で職員一人ひとりが理念を意識し、実践できるようにしている。又、常に意識付けできるよう玄関、トイレに掲示している。	「住み慣れた地域にて心む時間の中で共に生き家庭的な親近感を大切にしたい」を事業所独自の理念とし、玄関やトイレの目につく位置に掲示している。職員一人ひとりが日々言葉かけや態度などを振り返り、理念がケアに反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶したり、世間話をしたり、気軽に声を掛け合える関係ができています。地域の行事にも施設が参加できるよう配慮されている。又、施設内行事にも近所の方に参加していただいている。	自治会に加入している。地域の清掃には事業所周りをきれいにすることで参加したり、事業所のぜんざい会、バーベキューや忘年会には家族を含め地域住民の参加がある。天気の良い日は毎日近隣を散歩し、気軽に声掛け合ったり、野菜の作り方を教わったり差し入れがあるなど、地域と日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談や見学時等に、施設の紹介や説明をさせていただき、理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者様の状況や行事、事故等の報告を行っている。市役所、包括、民生委員、ご家族、利用者様に参加していただき、様々な意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	利用者・家族、民生委員や市職員など参加のもと2ヶ月に1度開催している。利用者の状況や行事報告、事故報告、外部評価結果など報告している。参加者からは高齢者を狙った詐欺の情報提供などがあり、被害にあわないように職員全員で共有しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告している。疑問に思った事や分からない時は、その都度連絡や相談を行っている。	諸書類の作成にあたり教えてもらうことがある。運営推進会議に市職員の参加があり、その際、利用者の状況や事業所としての取り組みなど報告している。事業所の夏祭りへ市職員の参加を呼びかけたり、協力関係を築くように心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止に関する委員会があり、自主的に勉強会を行っている。又、施設内だけでなく、外部研修にも参加し、日頃から拘束にならないよう話し合っている。	法人内での勉強会や外部研修に参加し、参加出来ない職員には伝達研修を行っている。職員は身体拘束禁止となる行為については理解しており、不適切な場面など管理者が気付いた際は注意、指導をしている。玄関は施錠しておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する委員会があり、自主的に勉強会を行っている。又、施設内だけでなく、外部研修にも参加し、虐待について充分理解し、防止に努めている。ご利用者に関わる際も言葉掛けには充分気を付けるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、外部より講師を招き、制度の理解に努めている。家族会時に紹介したり、玄関にはパンフレットを設置している。	現在制度を活用している利用者はいない。系列事業所での勉強会があり、制度について学んでいる。職員は制度について概ね理解しており、玄関にパンフレットを設置している。また、年1回開催される家族会で制度の紹介を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分に説明を行い、理解・納得をしていただけるよう努めている。後日、疑問や質問が生じた時は再度説明をするようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者様との会話や面会時にご家族との会話から希望や要望を聞き、職員間で話し合い、サービスに反映できるようにしている。又、玄関に意見箱を設けている。	玄関に意見箱の設置はあるが、意見・要望等は入っておらず、話しやすい雰囲気である。利用者から好物のぼた餅やメロンパンの誕生日ケーキが食べたいなどの要望が出るなど、利用者一人ひとりの思いを大切に、サービスに反映させている。家族からは避難訓練協力の申し出があり、案内をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングやケア会議、又 業務改善委員会の中で意見交換や提案を行っている。	基本的には利用者には担当が決まっているが、職員全員でかかわっており、意見や提案は言いやすい雰囲気である。下肢筋力強化の為の運動を提案・実施することで、以前より長く散歩出来るようになった事例がある。また、入浴や口腔ケアがスムーズにいくような順番についての提案も行い反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については、希望があれば調整を行い、働きやすい環境を整えている。又、職員が向上心を持って働けるよう資格取得にむけ、協力を行っている。(資格取得の為の勉強会参加等)		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用に関しては法人代表者に一任している。又職員が得意分野で能力が発揮できるような環境づくりに努めている。	職員の募集・採用に関して特に制限はない。学校行事など年休・希望休は取り易く、資格取得後の研修について勤務扱いで参加している。また、職員一人ひとりの能力が発揮できるように配慮されており、社会参加や自己実現が可能な職場である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会・研修会等に参加し、会議時に報告を行っている。又、日々利用者様と接する中で、不適切な声かけ等がないよう気をつけている。	系列事業所で2ヶ月に一度勉強会を開催しており、参加した職員が伝達研修をしている。声かけなど周りに対する配慮を含め、職員同士で気をつけたり、管理者がアドバイスをしたりして、利用者一人ひとりに沿った支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や外部研修には、職員のケアの実際と力量を把握し、参加できるようにし育成に役立てている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者交流会や、グループホーム部会に参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面接を行い、御本人との会話の中から不安や要望等を聞いている。又、体験での入居を行っており、安心してサービスが受けられるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階において、御家族が困っている事、不安なこと、要望等を聞き、相談にのっている。又、状況を電話で報告し、御家族との関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で、御本人や御家族の意向から何が必要かを見極め、必要に応じて、他のサービス等を提供し、最善の選択ができるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の出来る事や能力等を生活の中で反映し、職員と共に行うことで良い関係を築けるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回、御本人の状況を郵送にて報告し、又面会時には、共に情報交換を行っている。必要に応じて電話で連絡を行うことにより、共に利用者様を支える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの人や場所を御本人や家族に尋ね、関係が途切れないよう支援している。主治医も在宅時より継続している。	友人や近隣の訪問があり、お茶等で歓迎している。通いなれた美容室へ職員が送迎したり、手紙を書くお手伝いや、電話を掛ける手伝いをするなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活を把握し、利用者同士トラブルにならないよう配慮している。トラブルになりそうな時は職員が介入し、対応する事で良い関係が保てるよう努め、孤立しないよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も御家族から近況報告を得たり、他のサービス機関と情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の何気ない会話の中から要望を聞き、活かせるように努めている。毎月、常会を行い、一人ひとりに思いや意向を尋ね、希望に添えるよう努めている。	利用開始にあたり、これまでの自宅での過ごし方などを家族に聞き取り、センター方式のアセスメントシートに記入している。また、意思表示の少ない利用者には日々の関わりの中で、態度、行動、表情などから意向の把握に努め、本人本位に対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関わってきたサービス事業所より情報を得たり、本人との会話から生活歴を把握し、サービスに活かせるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況や状態については申し送りや記録等を通し職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望に沿ってケア会議やミーティング等で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者、家族の意向や、受診の際のかかりつけ医からの情報などを含め全職員参加のもと、ケア会議で検討している。利用者、家族の思いを具体化し、介護計画を作成、同意を得ている。毎月モニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しを行っている。状態変化時等は随時見直しを行うなど現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表やケース記録に記入し、情報を共有し見直しを行い、統一したケアが出来るよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族と相談をし、職員間で話し合いながら、多面的な支援ができるよう努めている。体験入居等も受け入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事に参加したり、介護相談員の訪問、又演芸ボランティアによる舞踊や劇の鑑賞等により、楽しみながら生活できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族の方に受診の付き添いをしてもらっている。受診時は、看護師による近況(バイタル・症状)を記入した受診ノートを持参してもらい医師へ報告し、かかりつけ医との関係を大切にしている。又、急変時や体調不良時は職員が付き添い受診を行っている。	利用者・家族の希望に沿い、入居前のかかりつけ医や協力医の受診ができています。基本的には家族が受診に同行し、出来ない時には看護師が同行支援している。受診時には利用者の日頃の状況がわかる受診ノートを持参し、情報提供を行うなど適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、気づきや体調の変化等を看護師に相談や報告を行っている。又必要に応じて看護師が受診に付き添ったり主治医と相談をし、指示を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行ったり、病院に行った際(お見舞い時)担当医と相談し、早期退院に向けて支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・ご家族、職員が十分に話し合い、ご本人やご家族の意向を踏まえた上で、重度化や看取りに対応できるよう往診や訪問看護といった連携を整え、終末期に向けたケア・治療ができるよう支援している。	入居時に看取りに関することや事業所に対応できることを説明している。本人や家族等の希望により、病院や同法人の特別養護老人ホームへの入所を希望されるのでこの3年間は看取りの事例はないが、かかりつけ医等と連携し夜間でも対応できる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、事例を通し、勉強会を行っている。又、会議やミーティング等では看護師からの指導や説明を受け、急変時に対応ができるようにしている。毎年、救急蘇生方法を繰り返し学び、現に救急車が着くまで指示を仰ぎ、実践されている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。1回は必ず消防署立ち合いの元行い、指導を仰いでいる。ご利用者を誘導し避難することで、職員も避難経路や避難場所を再確認できている。 又、近所の方や民生委員の方にも声かけし、協力してもらっている。	1回は消防署指導のもと、年に2回、避難訓練を実施している。火災報知機やスプリンクラーも設置されており、食料品を含め備蓄の準備も出来ている。自治会に呼びかけなどの取り組みで、地域を巻き込んだ体制での避難訓練が行われ始めている。	火災のみならず水害や震災についても対応する為に、法人全体で防災対策委員会も設置され、事業所も新たな取り組みが始まったところである。より一層の地域住民の参加、協力を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し人権を尊重した言葉かけを行っている。、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮した声かけや対応に努めている。	排泄や入浴時の羞恥心への配慮、利用者一人ひとりに添った声かけ、言動に努めている。排泄の失敗時も本人の自尊心を傷つけないように優しく接している。書類等は事務所に保管し職員は守秘義務について十分理解している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話や月1回の常会の中で、希望や意見が言えるような環境や雰囲気作りを心掛けている。特に食事や行事等、利用者様の要望を聞き出せるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、それぞれの思いを受け止めている。決まりごとにとらわれず、日程を変更し、希望に添った支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でその日の洋服を選んでもらったり、外出時や行事の際はその人らしい身だしなみに気を配っている。又、月1回の訪問美容があり、希望により利用されている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事づくりの際、皮むき・つぎ分け・配膳・お茶くみ等の出来ることをしてもらっている。又、季節感のある食材や手作りにこだわり、美味しく食べていただけるよう努めている。誕生日には希望食を提供したり、利用者による調理会では、全員で協力し調理を行っている。又メニューを考える際、利用者にも要望を聞いて作成している。	毎日買い出しに行き、新鮮な旬の食材が提供されている。近隣の方から野菜の差し入れがあり、食卓に上る。利用者は調理の下準備や後片付け、食器洗い、テーブル拭き等それぞれが自分の仕事として生き生きと手伝っている。職員も一緒に会話を楽しみながらの食事ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取・水分量を把握し、健康状態や咀嚼・嚥下能力に応じて量や形態を調整している。又、水分摂取量の少ない利用者様には声かけをし摂取するよう促している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に応じて介助をし口腔状態の観察をし、要望があれば歯科往診を依頼している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者様の能力、状況により布パンツと紙パンツの使い分けをしている。昼間はできるだけトイレでの排泄を支援し、自立にむけた支援を行っている	本人のプライドを傷つけないようトイレの声かけ誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンに応じて紙パンツやパッドを使い分けたり、本人の体調を考慮しながら、自立にむけた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を献立に組み入れたり、こまめに水分を提供している。毎日、散歩や体操等、適度な運動を行い便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っているが、ご本人の状態や要望に応じ、個々に合わせた入浴を行っている。また、入浴剤を使用したり、柚子湯等で匂いや季節の香りを楽しんでいただいている。	希望に応じて毎日提供しており、午後から夕方5時くらいまで入浴出来るようになっている。利用者によっては30分くらいかけて入ることもあり、お風呂を楽しみにしている利用者が多い。二人一緒に入ったり、歌やおしゃべりなど楽しんでいる。また、温泉に行ったときには利用者、職員も一緒にお湯を楽しんだりしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や外出したり、リビングで他の利用者様方と一緒に過ごす等し、夜間良眠に繋げている。不眠時は、個別に話を聞く等寄り添い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。休息していただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬について把握し、変更等あった場合は申し送りを行い記録している。服薬後の状態観察を行い異変時には、早期対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族からの情報をもとに生活歴を把握し、負担にならない程度に役割(掃除・洗濯たたみ・調理の手伝い)と、楽しみごととして買物や季節に合わせた外出行事を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々にあわせ、散歩・買い物・ドライブ等に出かけている。季節に応じて花見・外食・芝居見物等に出かけ、外出の機会を多く取り入れている。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したり、一人ひとりの要望に沿って一緒に買い物に行ったりしている。季節ごとの花見やドライブ、外食、芝居見物など日常的に外出を支援してをいる。今後は、ボランティアなどの参加も計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で金銭管理が難しい方については、ご家族から所持金を預り希望時に使えるよう管理している。又、管理が出来る方にはご家族了解の元、少額を本人に管理してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話ができるようにしている。ご家族や知人に手紙や年賀状のやり取りができるよう支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面台に季節の花を飾ったり、壁に行事の写真を貼ったりして生活感や季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう支援している。	民家を改築し、狭い空間も上手に活用するなど、寛げる空間となっている。また、利用者が集う食堂兼居間は、季節の花や写真が飾られ、調理の様子、料理の匂い、食器の音など生活感にあふれている。ガラス越しに見える庭には季節の野菜や花が植えら、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室にて、気の合った利用者様同士がお話しされたり、テレビを一緒に観たりされている。又天気の良い日には、中庭のベンチへ腰かけ日光浴をしたり、自由に過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた馴染みのタンスを持参していただいたり、家族の写真や利用者様の作品を飾ったり、居心地良く生活できるように支援している。	居室は適度な明るさがあり、備え付けのベットがある。使い慣れた家具がゆったりと配置され、家族の写真や利用者の作品が飾られている。また、仏壇には遺影が飾られるなど、本人が居心地良く過ごせる配慮をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには、手すりを設置し、利用者様が移動しやすいようにしている。環境を整備し安全に配慮し、自立に向けた支援ができるように工夫している。		